

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち1枚目)

順位	発 言 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	左近充 議員	1 国体誘致における湯之尾の整備経過は、どうなっているか。	(1) 湯之元橋の架け替えは、どのように進めているか。 (2) 2020年国体のカヌー場誘致に向けて、川内川旧河川の整備は、どのように進められているのか。	市 長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち2枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
2	岩元 克頼議員	1 高齢者等の交通手段を充実することについて	(1) 原田、国ノ十地区の方々は公共交通の便がないため、高齢者等の日常生活が大変不自由だと聞いている。75歳以上の方のタクシー券もあるが、のりあいタクシー等の交通手段を考える事はできないか。また、まごし館と大口ふれあいセンターを結ぶ交通手段があっても良いと考えるがどうか。	市長	
		2 風疹の予防接種対策について	<p>今年は風疹にかかる人が急増していると聞いているが、妊娠初期感染における先天性風疹症候群の子どもが生まれる危険性が高いとされている。以下の点についてお尋ねしたい。</p> <p>(1) 市が把握している直近の罹患者数（国、鹿児島県、伊佐市）</p> <p>(2) 予防接種を受けていない人、その可能性がある人の中で妊娠を予定、または希望している女性や妊娠している人の家族に対する助成措置をとる自治体が増えているが、伊佐市としてはどういう対策をとるか。</p> <p>(3) 妊娠している女性と接触機会の多い保育士や、幼稚園教諭等への対応や広報、啓発についてどうするか。</p>	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち3枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
3	柿木原榮一議員	1 図書館及び歴史資料館をまちおこし、まちづくりの起爆剤として、より以上の活用はできないか。	<p>(1) 現在、図書貸し出しのシステムを菱刈・大口共通の制度に取り組んでいるが、伊佐市の図書館及び歴史資料館をもっと多くの方に利用していただきたいので、年中無休の民間の力（指定管理者制度）を、活用できないか。</p> <p>(2) 佐賀県武雄市は、平成25年4月1日から公立図書館のイメージを変え、レンタル大手の代官山 TSUTAYA の運営会社カルチャー・コンビニエンス・クラブ（CCC）と企画・運営に関する提携の指定管理者制度を開始した。1カ月間で前年同期比5倍急増の10万人と発表された。武雄市は、年間来館者数を対前年比2倍の50万人に想定。年中無休、午前9時から午後9時の開館、図書エリア・販売エリア（スターバックスコーヒー店）・ビデオ貸し出しなどで話題となり、他市の議会行政視察も4月27日現在で約30団体もあった。駐車場は約70台分だが、警備員もCCCで雇用し、常時満杯の状態だった。開架図書は旧館の約2倍、20万97冊、職員も23人から雇用人数50人で雇用促進になっている。CCCが受け取った指定管理料は、年間1億1000万円で、旧館時代の運営費の1割減であった。このような指定管理者制度を、市長はどう思うか。</p> <p>(3) 武雄市は、歴史のある武雄鍋島藩の蘭学もあり、歴史資料館も充実している。伊佐市も新納忠元公の400年の歴史、海音寺文学の普及及び意志をくんだアピールができないものか。海音寺潮五郎基金が創設されたが、有効利用できないか。</p>	市長 教育長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち4枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
		2 伊佐市水道事業について	<p>(1)山野（井立田）水源地の整備をしたが、水源の予定水量の確保と水質に変化はなかったか。特にPH・色度・亜硝酸性窒素・硝酸性窒素・硬度・蒸発残留物の数値はいか程か。</p> <p>(2)水道の水質の苦情は、きていないか。例えば、異物の混入・配管の鉄分の混入等</p> <p>(3)本管を埋設されてから、期間が経っているが、本管部分の更新は考えていないか。</p> <p>(4)耐震性のパイプの埋設率はいか程か。伊佐市の耐震用パイプの考え方は。</p> <p>(5)水道加入件数減・人口減に対する伊佐市水道事業の見通し及び対策は。</p>	市長	
		3 さくら館の指定管理者の状況は。	<p>(1)さくら館は、閉鎖してから2カ月たったが、どのようになっているか。</p> <p>(2)現在の管理状態と開館予定は。</p>	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち5枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
4	久保 教仁議員	1 どうする伊佐の農業（本格的な6次産業化への取組みを）	<p>(1) 施政方針等で、今年度6次産業化に向けた取り組みを進めるということだが、年度四半期を終えようとする今、その進捗状況はどうか。</p> <p>ア 担当課、係はどこか。 イ 年度内の具体的施策は。 ウ 将来的な数値目標及び展望は。</p> <p>(2) 6次産業化法案に対する取り組みはなされているか。</p> <p>ア 6次産業化について、対象事業あるいはネットワーク事業について、国の公募があるが、その対応はなされているか。また、6次産業化法に基づく支援策は、どのような事業があるか。 イ 伊佐農業の将来を展望し、国の施策にどう対応し、また、どのように県に働きかけていくのか。あるいは、市単独の伊佐市の農業を確固たるものとする6次産業化法への取り組みへの展望を伺う。</p>	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち6枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	鶴田 公紀議員	1 公共施設（市有地を含む）等の利活用について	(1) 中央公民館跡地の活用は (2) 都市計画完了後の市有地の活用及び処分状況は (3) 老朽化した市営住宅の活用状況は (4) 夢さくら館の駐車場及びトイレの利活用は (5) 総合運動公園、菱刈農村公園グラウンド及び忠元公園の利活用は (6) 多目的公園用地（国本会から購入地）の利活用は (7) 国道267号バイパス（里～陣之尾間）の進捗状況の把握は	市長	
		2 少子高齢化対策について	(1) 人口推計によると2040年には伊佐市の人口が1万8,000人になると予測されている。減少の歯止め対策は (2) 少子化に伴い小学校の再編を考慮するのか (3) 高齢化に伴い農業後継者の育成をどう図るべきか (4) 限界集落や交通弱者等の問題解決策は	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち7枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	森田 幸一議員	1 職員給与の格差是正について	<p>(1) 合併協定で協議された各項目の一つである大口市、菱刈町職員給与の格差是正の進捗状況について</p> <p>(2) 給与格差をどのように是正したか。具体的な説明を求める。</p> <p>(3) 現在までの給与是正において、ラスパイレス指数はどのような数値になったか。年次ごとに示せ。</p>	市長	
		2 買い物弱者の支援について	<p>(1) 高齢化による買い物弱者をどれくらい把握しているか。校区別に示せ。</p> <p>(2) 本市は、この問題にどのような対策を考えているか。</p> <p>(3) 移動販売車で高齢者の夫婦や一人暮らし世帯の多い集落へ食料品等を販売されている事業者へ、また新規の事業者へ補助金等の支援は考えられないか。</p>	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち8枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	前田 和文議員	1 今後の消防団のあり様について	(1) 消防分団詰所の整備計画は、どのような進捗状況であるのか。 (2) 消防団員の条例定数と、高齢化する団員選出地区の現状をどのように考えているのか見解を問う。 (3) ハード的整備をどの程度必要と考えているのか。また、退役消防団員などで構成する予備隊の編成に、取り組む必要はないのか。 (4) 各関係機関との協力連携構築に問題点はないか。	市長	
		2 均衡のとれた地域維持政策について	(1) コミュニティ協議会の育成・充実を、重点目標とした対策に取り組まれているが、それを支える人口年齢構成の適正化に向けた政策実施が見られない。市営住宅の整備、もしくは跡地等の整備をし、個人向けの分譲地として、販売できないのか示されたい。 (2) 小学校の適正規模確保にも、重要な課題であると考えているが、教育的見地から意見を伺いたい。	市長 教育長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち9枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
8	中村 周二議員	1 コミュニティを含めたまちづくりを	(1) 空き家対策で地域づくりはできないか。 (2) 先進地研修をして、伊佐に取り入れる考えはないか。 (3) 市の重点的政策を、市民にわかりやすくするためのアピールの方法は考えないか。 (4) 道州制の話聞くが、道州制になるようなら、今どのような政策が必要と考えるか。	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち10枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	諏訪 信一議員	1 教育委員の任命について	<p>(1) 大津市の中学生の自殺を受け、教育委員会の対応にきびしい批判が集中した。</p> <p>政府の教育再生実行会議は、教育長に教育行政の責任を一元化し、首長が議会の同意を条件に、教育長の任命、罷免権をもつことを柱とする教育委員会制度改革の提言書を首相に提出した。</p> <p>首長の教育行政への関与を強化する内容で、教育の政治的中立性をおびやかすもので、とうてい容認できるものではない。</p> <p>現在、教育委員の任命について、首長より議会に対して同意を求めています。本人の教育に取り組む所信を表明する機会があってもいいのではないか。</p> <p>これまでは、経歴などが記された書類のみで判断し、当局の提案を追認するような感覚でいたが、いじめや体罰等、教育委員会のあり方が注目されている今日、議会が個人を見極めるためにも、本人が意見を述べる議会が必要ではないのか。</p> <p>(2) 教育委員の人選は、どのようになされているのか。</p> <p>(3) 委員の一人に、子育て中の母親代表を選任できないのか。</p>	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち11枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	沖田 義一議員	1 「ノー部活デー」の通知について	<p>(1) 毎週水曜日を「ノー部活デー」として、通知を出しているが、このような通達を出すに至った経緯について伺う。</p> <p>(2) 学校長、指導者、保護者、生徒等との協議は行われたのか。</p> <p>(3) 部活についてどのような位置づけ、評価をしているのか。</p>	教 育 長	
		2 特産物販売所（物産館）の開設について	<p>(1) 過去においても多くの質問があり、答弁がなされている。農産物直販所建設の進捗状況を伺いたい。</p> <p>(2) JA との連絡、調整等はどのようにになっているのか伺いたい。</p> <p>(3) 伊佐市と市民による第3セクター方式の農産物直販所の検討をしたことはあるのか。また、株式会社の設立も含めた検討はできないか。</p>	市 長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち12枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
11	福本千枝子議員	1 国民健康保険事業の赤字対策について	(1) 医療費削減について ア 特定検診の結果の分析と特定保健指導は充分と考えるか。 イ 本市の医療費を圧迫させている疾患は何か。また、特定検診が始まってから改善されたか。 ウ 特定検診の受診者と未受診者の医療費の分析を実施しているか。 エ 国保については市民課と健康増進課の所管であるが、問題解決の為、専門の係として保健師と事務職を配置すべきでは。 オ 元気づくりが急務である。元気な人づくり構想をどう考えるか。	市長	
		2 流入人口のまちづくりについて	(1) 人口減少が続く本市にとって、流入人口増が求められると考えるが、 ア 小水力発電も完成した。新曾木大橋開通後の観光客の状況はどうか。また、PR活動の状況は。 イ 「東洋のナイアガラ」と呼ばれて久しいが、もっと多くの人々を呼び込めるようなネーミングが考えられないか。 ウ 日本巨木100選の「日本一のエドヒガン桜」、日本桜名所100選の「忠元公園千本桜」は県内外で注目を浴びている。もっと桜を植樹し「桜のまち伊佐」として人々を呼べないか。 エ 伊佐市出身の著名人である海音寺潮五郎氏、榎木孝明氏、井上雄彦氏等による「文化ロード」のまちづくりは考えられないか。	市長	
		3 夢さくら館について	(1) 指定管理者制度により、管理委託として大国ファームが受託されたが、現在入り口にはロープが張られ閉館のままである。いつ開館するのか、市に説明等があったのか伺う。	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち13枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
12	畑中 香子議員	1 生活保護基準引き下げ問題について	(1) 政府は社会保障改革推進法により生活保護基準引き下げを進めているが、この影響で保護世帯の扶助費が世帯あたりいくらの減額になるか。保護に該当しなくなる世帯があるか。 (2) 生活保護基準引き下げにより、就学援助費や各減免制度にどのような影響が出るのか。該当しなくなる世帯は。	市長	
		2 TPP問題による本市への影響について	(1) 政府は、3月のTPP交渉参加表明に続き、アメリカとの事前協議「合意」を行ったが、事前協議の中で米、乳製品、砂糖など重要農産物の関税確保については全く保証がないことが明らかになった。また牛肉、自動車、保険の3分野で日本はアメリカの要求を丸のみする結果となっている。このままTPP交渉妥結となった場合、本市の米、畜産など農業への影響は。	市長	
		3 19市中最低水準の子ども医療費助成拡充について	(1) 子ども医療費助成は県内各地で拡大が進められ、本年度鹿児島市が小学校卒業まで拡大することで、就学前までの助成は19市中伊佐市、西之表市、奄美市の3市だけとなった。西之表市、奄美市は自己負担が0円であり、本市は自己負担3,000円と、県内19市中最低の水準となった。この制度の拡大を検討すべきではないか。 (2) 現物給付を検討し、制度の充実を図るべきではないか。	市長	
		4 「ノー部活デー」について	今年度から毎週水曜日の中学校の部活動を休みとする「ノー部活デー」が始まったが、当事者である生徒や保護者を中心に「個々の事情に合わせて柔軟に対応してほしい」との声が上がっている。学校や部活動ごとに週1日を「ノー部活デー」として柔軟に設定できるように配慮が求められるのではないか。	教育長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち14枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
13	山下 和義議員	1 特別支援学校の設置について	<p>特別支援学校は学校教育法第80条により、「都道府県は、その区域内にある学齢児童及び学齢生徒のうち、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者で、その障害が第75条の政令で定める程度のものを就学させるに必要な特別支援学校を設置しなければならない」となっている。旧大口市時代の平成4、5年頃、養護学校の設置の誘致運動を保護者等を中心に行った。その時は出水地区にも養護学校がなかったため、北薩地区と始良・伊佐地区の生徒を対象に、鹿児島県は平成8年1月に出水市に新設の養護学校の設置を決定し、平成12年4月に学校を開校した。開校時の全校生徒数は99人、学校職員7人ということである。13年経過した平成25年5月1日現在の出水養護学校の生徒数は190人である。その内、伊佐市40人、湧水町12人の子供たちは、毎日1時間から1時間30分かけてスクールバスで通学している状況である。伊佐市は子育てにやさしい日本一のまちを目指し、特に障がい児の子育て環境の整備・障がい児支援には鹿児島県の中でも一番に取り組んできていると思っている。そこで次のことについて市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 伊佐市と湧水町からの通学者等を考えると、伊佐市として特別支援学校の設置を鹿児島県に働きかける時期に来ていると思うがどうか。</p> <p>(2) 保護者らの要望活動等をスムーズに進めるために行政に窓口を設置するべきではないか。</p> <p>(3) 現在出水養護学校に通学している保護者の一番の心配は高等部を卒業した後の進路である。現在の学校教育法ではできないかも知れないが、大学部の設置も検討される時期に来ていると思うがどうか。</p>	市長	

平成25年第2回定例会一般質問

平成25年6月17日・18日・19日

(15枚のうち15枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
13		2 「福祉の日」の設定について	<p>「おぎゃー献金」は、ご存知の通り、遠矢善栄博士が愛の献金をと発案された運動が発端である。</p> <p>(1) 市内の先生方にまずこの「おぎゃー献金」のなりたちや献金堂を研修していただき、市内の児童・生徒全員に学習させる体制づくりをする。一人の発想が、たくさんの人々を救う運動になるということを学習させることは、児童・生徒のこれからの人生に少なからず影響すると思うがどうか。</p> <p>(2) 「おぎゃー献金」と共に、遠矢善栄博士の名前はこれからも残っていくと思が、旧大口市の名誉市民ではない。先生の意思がどのようなものか分からないが「福祉の日」を設定してこのことを祝う集いができないか。</p>	市長	
		3 市民研修の実施について	<p>市長は、これからの4年間、「特に若者を引き出し、若者に本当に自主性を持って自分たちの将来のために今何をすべきか」ということを強く認識させるのが一番であり、若い力が今後の20年、30年後を考えて今何をすべきか」ということを、市の職員を含めて全ての業界の若い方々に訴えていきたいと言われている。若い力を引き出していくことは、非常に大事であり、これを、広く市民に研修する機会を提供する必要があると思う。議員研修や行政の研修はあるが、市民に対する研修機会は少ない。百聞は一見に如かず。これからの伊佐市が向上していくために、行政が窓口となって、市民研修の機会を提供できないか。</p>	市長	